

高垣博也さん トーク 動画 **2月24日(木) 11:26~11:56**

1965年生まれ。平成元年より東映で助監督として働く。主に『水戸黄門』等の時代劇を担当する。2006年サンテレビ『ヴァンパイアハンター』を2話監督。2008年、自由法曹団からの依頼で市民ミュージカルの企画立ち上げから関り、脚本、総監督として市民参加の2009年市民ミュージカル『時間旅行はいかが』を手掛ける。2011年、原発事故を受けて、東映OBからの依頼でドキュメンタリー映画『パベルの塔』を製作。取材から撮影編集も行う。京都のみならず福島や大阪、広島でも上映。2012年ドキュメンタリー映画『ドムの嘘、ゴモラの呪縛』同年ドキュメンタリー映画『対馬丸』2021年ドキュメンタリー映画『ヴェンデ』

山田正彦さん トーク 動画 **2月27日(日) 13:53~14:23**

1942年、長崎県生まれ。弁護士。早稲田大学法学部卒。司法試験に合格後、故郷で牧場を開く。オイルショックにより牧場経営を終え、弁護士に専念。その後、衆議院議員に立候補し、4度目で当選し5期務める。2010年6月、農林水産大臣に就任し農業者戸別所得保障を実現。2012年、民主党を離党し、反TPP・脱原発・消費税増税凍結を公約に日本未来の党を結党。現在は、弁護士の業務に加え、TPPや種子法廃止、種苗法改定問題等、食の安全、食料安全保障の問題点を明らかにすべく現地調査を行い、各地で講演や勉強会を行っている。今後は学校給食をオーガニック食材にするための運動にも注力。メディアが伝えないタネや食の安全について広く知ってもらうためにプロデューサーとなり、映画を2本制作。『タネは誰のもの』『食の安全を守る人々』日本の種子を守る会 顧問、TPP交渉差止・違憲訴訟の会共同代表、テックスペースプロジェクト・ジャパン共同代表、他

青原さとしさん **2月28日(月) 15:35~16:05**

ドキュメンタリー映像作家。1961年広島市生まれ。1985年、龍谷大学仏教学科卒業。1988年 民族文化映像研究所入所。2002年まで14年間演出部に所属。『赤山渡』『松原村の式三番』『山の獅子舞』『七島正月とヒチゲー』『畔吉の万作踊り』『上岡観音の絵馬市』『ガジュマルの樹』などを演出。2003年『土徳一焼跡地に生かされて』を自主制作、以後、広島を拠点に移し、『望郷〜八瀬小学校原爆犠牲者をさがして』(2006)『藝州かやぶき紀行』(2007)『三百七十五年目の春風』(2010)『時を鑄込む』『タケヤネの里』(2011)『誰もそなたも苦労様よ』(2015)『土徳流離〜奥州相馬復興への悲願』(2015)、『赤倉ホテルの念佛ばあちゃん』(2018)『あさがお灯籠』(2021)。2018年から広島県北広島町の教信坊住職も兼務。

いくまさ鉄平さん

2月23日(水) 13:05~13:35

2月25日(金) 18:45~19:00

東日本大震災の復興支援のため東北まち物語紙芝居化100本プロジェクトを実施、その中でアニメ浪江町消防団物語「無念」を始め4本のアニメーション作品を制作。ドキュメンタリー映画「想う力」監督、毎日新聞おやかつ情報局の編集長。あやめ発ひろしま街物語テレビ紙芝居(ホームテレビ放送)制作。カーブ誕生物語や初優勝物語の紙芝居作成、絵本「よろこびの唄」制作。南区七大伝説の立ち上げ、マツダズームスタジオオープニング事業、音楽茶房ムシカ復元、横川レトロバス復元の会、広島かよこバス活用委員会など、多くの街づくりを主幹。紙芝居によるまちづくり活動として「ぼろはん紙芝居読み手育成講座」を開くことにより広島県下に300人の紙芝居師育成を目指す。またその一方で小学校とコラボした「物語の絵コンクール」からの紙芝居づくりを実施、地域をあげたまち物語づくりに取り組む。

2/22 (火)	10:00~11:53 E くじらびと	12:10~14:04 G 五島のトラさん	14:20~16:03 F 食の安全を守る人々	16:15~18:03 I 極道めし	18:15~ トークライブ D ヴェンデ 光と水のエネルギー	18:30~19:56
2/23 (水)	10:00~11:54 A 世界で一番しあわせな食堂	12:10~13:05 B 福島原発はじまり物語『峠』	13:05~13:35 ゲスト いくまさ鉄平さん	13:50~15:27 J 弁当の日 「めんどくさい」は幸せへの近道	15:40~17:34 G 五島のトラさん	17:50~19:38 I 極道めし
2/24 (木)	10:00~11:26 D ヴェンデ 光と水のエネルギー	11:26~11:56 ゲスト 高垣 博也さん	12:20~13:27 C あさがお灯籠	13:40~15:19 H 僕は猟師になった	15:40~17:33 E くじらびと	18:00~ トークライブ J 弁当の日 「めんどくさい」は幸せへの近道
2/25 (金)	10:00~11:39 H 僕は猟師になった	12:00~13:54 A 世界で一番しあわせな食堂	14:10~16:04 G 五島のトラさん	16:25~18:08 F 食の安全を守る人々	18:30~ トークライブ B 福島原発はじまり物語『峠』	19:00~19:55
2/26 (土)	10:00~11:37 J 弁当の日 「めんどくさい」は幸せへの近道	12:00~13:26 D ヴェンデ 光と水のエネルギー	13:40~15:28 I 極道めし	15:40~17:34 A 世界で一番しあわせな食堂	17:50~ トークライブ E くじらびと	18:05~19:58
2/27 (日)	10:00~11:54 G 五島のトラさん	12:10~13:53 F 食の安全を守る人々	13:53~14:23 ゲスト 山田 正彦さん	14:40~15:47 C あさがお灯籠	16:00~17:37 J 弁当の日 「めんどくさい」は幸せへの近道	18:00~ トークライブ H 僕は猟師になった
2/28 (月)	10:00~11:48 I 極道めし	12:10~14:03 E くじらびと	14:20~15:15 B 福島原発はじまり物語『峠』	15:35~16:05 ゲスト 青原 さとしさん	16:05~17:12 C あさがお灯籠	17:30~ トークライブ A 世界で一番しあわせな食堂

A 世界で一番しあわせな食堂

劇映画 | 2019年 | 114分 | フィンランド・イギリス・中国

23 ※ 10:00 ~ 11:54
25 ※ 12:00 ~ 13:54
26 ※ 15:40 ~ 17:34
28 ※ 18:00 ~ 19:54

監督：ミカ・カウリスマキ
出演：アンナマイヤ・トゥオッコ、チャー・バック・ホング
© Marianna Films

フィンランドの小さな村にある食堂を舞台に、異国から来た料理人と地元の人々が織りなす心の交流を描いたヒューマンドラマ。フィンランド北部の小さな村、シルカが営む食堂に、上海からやって来た料理人チェンとその息子が訪れる。チェンは恩人を捜していると言うが知る人は誰もおらず、シルカは恩人捜しに協力する代わりに食堂を手伝ってもらうことに。「医食同源」を料理哲学とするチェンの料理は評判を呼び、食堂は大盛況。シルカや常連客たちと親しくなっていくチェンだったが観光ビザの期限が迫り、帰国の日が近づいてくる。

B 福島原発はじまり物語『峠』

アニメーション | 2022年 | 55分 | 日本

23 ※ 12:10 ~ 13:05
25 ※ 19:00 ~ 19:55
28 ※ 14:20 ~ 15:15

監督：いくまさ鉄平 **世界初公開**

© まち物語制作委員会

「ヒロシマとフクシマの歴史のつながり」を描く紙芝居アニメーション。ヒロシマに日本で最初の原発が作られようとしていた事、原爆資料館で原子力の平和利用博覧会が開かれた事など、原爆と原発、これら驚愕の関係性に気づいた監督は広島市の作家として作らざるを得なかった。原爆被害という「絶望」からの核の平和利用という「希望」、そして福島の原発事故という「絶望」を一人の被災者の時間軸の上に置いたとき見えてくるものがあふれる。事故から10年、峠を超えた日本はSDGsの観点から原子力発電を再検討する傾向にある。新たな一歩を踏み出す前に見て欲しい作品。

C あさがお灯籠

ドキュメンタリー | 2021年 | 67分 | 日本

24 ※ 12:20 ~ 13:27
27 ※ 14:40 ~ 15:47
28 ※ 16:05 ~ 17:12

制作・撮影・語り・監督：青原さとし
朗読：青原陽子
© 青原さとし

広島県は浄土真宗のお寺が数多くありその信徒のことを「安芸門徒」と呼ぶ。お盆の時期、各家々のお墓に一齐に立ち始める「あさがお灯籠」は安芸門徒の風物である。竹と和紙だけで簡素に作られたあさがお灯籠とはいったい何故生まれたのか？広島市の真宗のお寺・真光寺生まれ育った青原監督は、1990年頃から30年に渡って灯籠職人や市井の人々に問いかけ取材を行った。あさがお灯籠を通じて見えてくる「ヒロシマ」、日本列島に底流する「ともし火」文化の想いが映し出されてくる。

D ヴェンデ 光と水のエネルギー

ドキュメンタリー | 2021年 | 86分 | 日本

22 ※ 18:30 ~ 19:56
24 ※ 10:00 ~ 11:26
26 ※ 12:00 ~ 13:26

監督：高垣博也 **広島初公開**

© 2021ヴェンデ制作委員

WENDE（ヴェンデ）とはドイツ語で大改革の意味。化石燃料から自然エネルギーへと転換するエネルギー改革の意味でも使われる。作品では近畿地方での自然エネルギーの取材を行い、太陽光発電と小水力発電を中心に捉えながら、農業や林業とのつながりが見えることからバイオマス発電も取り上げる。原発事故を契機に世界が自然エネルギーに舵を切る中、出遅れている日本。民間ながら京都議定書、原発事故、気候危機をきっかけに自然エネルギーの導入に動く多くの人々を追う。

E くじらびと

PG-12 | ドキュメンタリー | 2021年 | 113分 | 日本

22 ※ 10:00 ~ 11:53
24 ※ 15:40 ~ 17:33
26 ※ 18:05 ~ 19:58
28 ※ 12:10 ~ 14:03

監督・撮影：石川梵
©Bon Ishikawa. All Rights Reserved.

およそ400年間続く伝統的な捕鯨の様子を捉えたドキュメンタリー。インドネシア東部にあるラメララ村ではクジラのモリ打ち漁が行われており、その中でも「ラムファ」と呼ばれる漁師たちは村人たちに一目置かれている。年間10頭ほど獲れば村人全員が暮らせるだけの収入になるクジラ漁は、常に死と隣り合わせでもある。それでもモリ一本で巨大なマッコウクジラに挑む姿を見て、子供たちはラムファに憧れる。石川監督はおよそ30年にわたってラメララ村の人々を追いかけて、2017年から2019年までに撮影した映像をまとめた。オフィシャルサポーターに山田洋次監督らが名を連ねる。

F 食の安全を守る人々

ドキュメンタリー | 2021年 | 103分 | 日本

22 ※ 14:20 ~ 16:03
25 ※ 16:25 ~ 18:08
27 ※ 12:10 ~ 13:53

監督・撮影：原村政樹
ナレーション：杉本彩
©心土不二

日本、韓国、アメリカなどを回り、グローバル化したアグリビジネスの現状や、各国で食の安全に取り組む人々を映し出すドキュメンタリー。日本では種子法の廃止、種苗法の改正、ラウンドアップ規制緩和、表記のないゲノム編集食品流通といった事実がほとんど報道されないことに危機感を抱いた原村政樹監督と、弁護士より元農林水産大臣の山田正彦氏は、各地を回り撮影を開始。日本国内だけでなく、アメリカでのモンサント裁判の原告や、子どものために国や企業と闘う女性、韓国の小学校で普及するオーガニック給食などについて幅広く取材する。

G 五島のトラさん

ドキュメンタリー | 2016年 | 114分 | 日本

22 ※ 12:10 ~ 14:04
23 ※ 15:40 ~ 17:34
25 ※ 14:10 ~ 16:04
27 ※ 10:00 ~ 11:54

監督：大浦勝
ナレーション：松平健
©テレビ長崎

長崎県の五島列島で五島うどんと天然塩の製造に従事する大家族を1993年から22年間追ひ続け、国内外の賞を受賞したドキュメンタリー。長崎県の五島列島北部に位置する新上五島町で、五島うどんと天然の塩を作っているトラさんこと大塚虎夫さんとその一家。妻の益代さんとその間に生まれた7人の子どもたちは、朝早くから交代で家業を手伝って、学校へ向かう。「学校では教わらないことを家の手伝いを通して学ぶ」とトラさんはいう。過疎化が進む島で生きていく術を考えながら豊かに生きている。そんなトラさん一家の暮らしと子どもたちの22年におよぶ成長の記録。

H 僕は猟師になった

ドキュメンタリー | 2020年 | 99分 | 日本

24 ※ 13:40 ~ 15:19
25 ※ 10:00 ~ 11:39
27 ※ 18:15 ~ 19:54

監督：川原愛子
ナレーション：池松壮亮

NHKのドキュメンタリー番組「ノーナレ」で放映された「けもの道 京都いのちの森」の劇場版。300日の追加取材を行い、撮りためた約2年間の映像を再編集して命と向き合う猟師の日常を映し出す。1974年に兵庫県で生まれた千松さんとは京都大学在籍中に狩猟免許を取得し、先輩の猟師から伝統的なくくりわなや無双網を使った猟を教わってもらった。週半ばは運送会社に勤務して必要な生活費を稼ぎ、残りは京都の山中で猟をしながら生活している。千松さんは生きていくために必要な食料を自らの手で獲る猟がしたいと考え、自分や家族、友人に必要な分だけ獲物を狩る。

I 極道めし

劇映画 | 2011年 | 108分 | 日本

22 ※ 16:15 ~ 18:03
23 ※ 17:50 ~ 19:38
26 ※ 13:40 ~ 15:28
28 ※ 10:00 ~ 11:48

監督・脚本：前田哲
原作：土山しげる
出演：永岡佑、勝村政信、木村文乃
©2011「極道めし」製作委員会 ©土山しげる/双葉社

とある刑務所。傷害罪で入所した栗原、通称「新入り」が刑務所の地味な食事に落胆しているが、その様子を見た同じ監房の4人が、新入りの分の食事を平らげてしまう。そんな刑務所の食事の中でも特別なのが、年に一度しかない正月のおせち料理。この監房では、おせち料理を懸けて勝負の味を語るバトルをするのが恒例だった。思い出の「めし」についての自慢話バトルを繰り広げるヒューマン・コメディを『ブタがいた教室』などの前田哲監督が映画化。食べることと人の深い関係を描くことで、その旨いめしを語れば語るほど、愛したあの人を思い出す。

J 弁当の日 「めんどくさい」は幸せへの近道

ドキュメンタリー | 2021年 | 97分 | 日本

23 ※ 13:50 ~ 15:27
24 ※ 18:15 ~ 19:52
26 ※ 10:00 ~ 11:37
27 ※ 16:00 ~ 17:37

製作総指揮・監督：安武信吾
ナレーション：和久井映見
©2021「弁当の日」製作委員会

子どもが作る「弁当の日」。それは2001年、香川県にある滝宮小学校から始まった取り組み。「家の台所で、子ども自身に弁当を作らせてください。そして、それを学校に持たせてください。親は決して手伝わなくて。献立から片付けまで、やるのは全部子ども自身です。」前代未聞の「宿題」に保護者も教員もびっくり!!ところが、20年目の今、子どもが作る「弁当の日」は全国各地に広がっている。「してもらう側」から「する側」へ成長するチャンスを得た子どもたちの笑顔と涙。そして「してやるだけが子育てじゃない」と気づく大人たち。「弁当の日」マジックが起こすハートウォーミングドキュメンタリー。